

## 大塔山照葉樹林希少個体群保護林

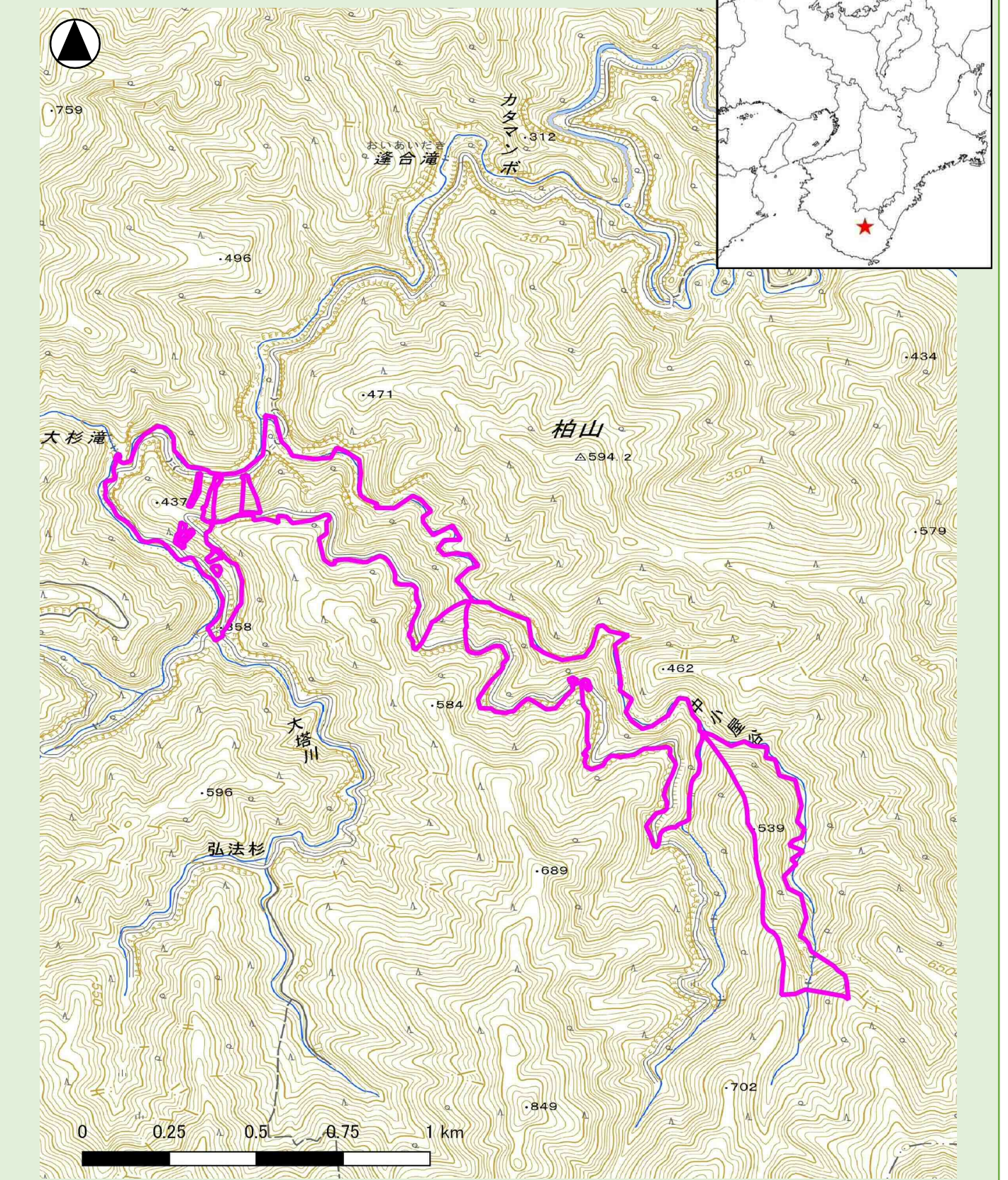
管轄森林管理局・署	近畿中国森林管理局・和歌山森林管理署
所在地・面積	和歌山県田辺市 ・ 56.76ha
設定年	平成5年4月1日設定、平成9年1月13日分離、平成30年4月1日再編に伴う名称変更及び管理方針書設定
保護林の概要	<p>当該区域は、大塔山の北側に位置して「黒蔵谷生物群集保護林」と接しており、急峻な地形と深い溪谷から成り立っており、南日本特有の種が生育する貴重な森林である。</p> <p>森林植生は、ツブラジイの大径木とウラジロガシやアカガシ等の小中径木からなる照葉樹林、天然ヒノキやツガからなる温帯針葉樹林等が分布している。</p> <p>保護対象種のシイ類はツブラジイやアカガシ、スダジイが確認されているが、胸高直径20～30cm程度のものが多く、大径木は少ない状況である。</p> <p>なお、一部にヒノキ人工林が介在している。</p>



### モニタリング調査の概要

実施年度	令和4年度
調査項目	森林タイプの分布等調査、樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、山火事等災害発生状況調査、病虫獣害・気象害発生状況調査、保護対象種生育状況調査、利活用実態調査、管理体制実態調査
結果概要	<p>保護対象種であるアカガシ、シラカシ、シイ類の大径木が少なく、照葉樹林を形成する母樹となりうる大径木としてツブラジイが4本確認された程度である。アカガシやスダジイは細い立木の確認のみで、シラカシは確認されなかった。また、稚樹がまとまって生育する更新サイトも確認されなかった。今回調査したツブラジイ群落の森林は、現状において原始的な天然林が維持されているが、シイ類の大径木が少なく、天然ヒノキの比率が高い。なお、一部の尾根にはヒノキ人工林が介在している。</p> <p>ニホンジカの食害により下層植生が貧弱となり、低木層以下で不嗜好性植物が優占している状況が確認されていることから、群落の維持・更新への影響が懸念される。</p> <p>これらのことから、当該保護林はシイ類の母集団の維持に努める地域と判断される。また、当該保護林はニホンジカによる森林被害が顕在化している地域と判断される。</p>

### 大塔山照葉樹林希少個体群保護林 位置図



#### 保護林内での注意事項

- ★貴重な植物群落の保護にご協力ください。
- ★植生の荒廃防止のため、歩道を外れて歩かないでください。
- ★許可なく動植物の捕獲及び採取をしないでください。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。